



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ドリコム

コード番号 3793 URL <http://www.drecom.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 内藤 裕紀

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 後藤 英紀

TEL 03-6682-5700

四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	2,065	84.8	177	△1.6	176	△1.7	102	△42.6
24年3月期第1四半期	1,117	—	180	—	179	—	178	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	755.62	747.50
24年3月期第1四半期	1,323.06	1,310.78

(注)当社は平成23年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。平成24年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	4,375	2,333	52.0	16,767.85
24年3月期	4,458	2,219	48.7	16,009.18

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 2,273百万円 24年3月期 2,169百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,500	67.9	300	△46.9	300	△46.7	180	△67.9	1,328.17
通期	11,000	53.0	1,400	3.5	1,400	3.8	840	4.4	6,198.12

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正につきましては、本日(平成24年7月30日)公表いたしました「平成25年3月期第2四半期累計期間および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第5条の4に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期1Q	135,600 株	24年3月期	135,525 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

25年3月期1Q	— 株	24年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期1Q	135,575 株	24年3月期1Q	135,010 株
----------	-----------	----------	-----------

(注)当社は平成23年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。平成24年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信(四半期決算短信)の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(5) セグメント情報等	7
(6) 重要な後発事象	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

国内のインターネット業界を取り巻く環境は著しいスピードで変化しています。平成28年度にはスマートフォンの出荷台数は3,555万台となり、携帯電話の総出荷台数の83.4%を占めるまでに拡大すると見込まれていますが(出所:MM総研)。また、ソーシャルネットワーキングサービス(以下、SNS)の台頭に伴いソーシャルゲームの市場規模が急速に成長する中、各ゲームのスマートフォンへの対応や国内SNS上の人気ゲームの海外展開が進み、市場は広がり参入形態は加速的に多様化しています。

この競争激化の中、平成24年5月にソーシャルゲームの課金手法に関する関係省庁の見解が発表されました。国内主要プラットフォーム6社が参加するソーシャルゲームプラットフォーム連絡協議会では、業界全体の健全な発展とユーザーの適正利用の推進に取り組んでいます。当社も、関係省庁及びゲーム提供先となるプラットフォーム各社と連携を取りながらゲーム本来の持つ楽しさを追求し、サービス内容の向上に努めてまいります。

当第1四半期におきましては、ソーシャルゲーム事業で平成24年6月5日に新ゲームシステムを採用した「戦国フロンティア」の提供を開始しました。加えて今後の新作開発に注力するとともに、当社ゲームの利用者拡大を目指しパブリッシング(他社の開発・運用するゲームを当社アカウントで提供することでユーザーの相互流入を狙う)によるゲームの提供を進めました。「陰陽師」などの既存ゲームにつきましては、「戦国フロンティア」ならびにこれに続く新作ゲームの開発を優先したことに加え、フィーチャーフォンからスマートフォンへの移行に伴うゲーム離れが重なり、既存ゲームの業績は軟調な推移となりました。「戦国フロンティア」は順調に利用者数を増やし当四半期の業績に寄与しましたが、既存ゲームの売上高減少の影響を補うまでには至らず、売上高は前四半期比で減少する結果となりました。

アドソリューション事業では、リワード広告サービス「poncan」掲載メディアと出稿クライアント両面の拡大に努めました。動画を視聴することでポイントを獲得できるサービスが好評を得ておりますが、当四半期においては事業の拡大に向けた体制強化により売上に對し費用が先行しました。

さらに、中期的な収益源の拡大を目指してソーシャルラーニング事業への投資を行っており、英会話学習アプリ「えいたま」は着実に利用者数を増やしております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上は2,065,542千円(前年同期比84.8%増)となりました。利益面につきましては、営業利益177,601千円(前年同期比1.6%減)、経常利益176,026千円(前年同期比1.7%減)と、ほぼ横ばいとなりました。四半期純利益につきましては、前年同期において税務上発生した繰越欠損金が税金費用を抑えていましたが、当四半期末においては課税所得と相殺可能な繰越欠損金がなくなったため税金費用が発生し、102,443千円(前年同期比42.6%減)となりました。

セグメント実績は以下の通りであります。

①エンタメウェブ

エンタメウェブでは、ソーシャルゲーム事業において、新ゲームシステムを採用した「戦国フロンティア」のGREEプラットフォームへの提供を開始しました。同ゲームは、市場の急激な変化を鑑みて、収益の最大化を実現するため提供開始時期を期初計画より約1ヶ月遅らせました。最適なタイミングで開始したことと優先的に経営資源を費やしたことが奏効し、「戦国フロンティア」は好調なスタートを切ることができました。しかしながら、前述のとおり経営資源を新作ゲームに優先投下したこともあり、既存ゲームにおいてはDAU(一日あたりの利用者数)が減少し、ARPU(利用者一人あたりの課金額)は一定の水準を保ったものの前四半期比で売上が減少する結果となりました。

ソーシャルラーニング事業においては、提供中のスマートフォン向け英会話学習アプリにおける経営指標の収集とユーザー動向の分析に尽力しております。この結果、同サービスは順調な立ち上がりを示していますが、業績への影響は軽微です。

以上のことからセグメントでの売上高は1,874,770千円(前年同期比86.29%増)、セグメント利益は250,909千円(前年同期比30.62%増)となりました。

②マーケティングソリューション

マーケティングソリューションでは、アドソリューション事業において、リワード広告サービス「poncan」導入メディアと掲載クライアント両面の拡大に努めました。この一つの結実として、平成24年6月5日に4万人超の会員を有するポイントサービス「Ponta」サイトへの「CMみてPonta(みてポン)」の提供に至りました。動画視聴によりポイントを獲得できる仕組みが好評を得、様々な業種のクライアントにご利用いただいておりますが、サービス立ち上げに伴う体制強化により人件費などの開発費用が売上に對して先行発生し、損失を計上する結果となりました。

なお、ASP事業につきましては当社の置かれた事業環境を総合的に勘案した結果、経営資源を注力事業に集約することで優位性の確保と企業価値の向上を図ることができるものと判断したため、当該事業は吸収分割の方法により株式会社ソーシャルグループウェアが承継することとなりました。

以上のことから、セグメントでの売上高は199,258千円(前年同期比73.39%増)、セグメント損失は73,307千円(前年同期比530.17%減)となりました。

今後につきましては、各事業において、既存ユーザーの継続利用に向けての取り組みを強化すると同時に、スマートフォン向けコンテンツ市場の拡大に対応したサービス開発の取り組み強化を図り、付加価値向上を目指したサービスの提供を行ってまいります。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は3,447,267千円となり、前事業年度末に比べ324,694千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が164,348千円増加したものの、売掛金が360,082千円、未収入金が136,354千円減少したことによるものであります。固定資産は928,041千円となり、前事業年度末に比べ241,339千円増加いたしました。これは主に無形固定資産が214,287千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、4,375,309千円となり、前事業年度末に比べ83,354千円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は1,797,620千円となり、前事業年度末に比べ169,908千円減少いたしました。これは主に短期借入金が267,001千円増加したものの、未払金が88,239千円、未払消費税が73,408千円、未払法人税等が298,084千円減少したことによるものであります。固定負債は244,531千円となり、前事業年度末に比べ26,895千円減少いたしました。これは主に長期借入金が28,329千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、2,042,151千円となり、前事業年度末に比べ196,803千円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は2,333,157千円となり、前事業年度末に比べ113,449千円増加いたしました。これは主に四半期純利益102,443千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は52.0%(前事業年度末は48.7%)となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成25年3月期第1四半期においては、ソーシャルゲーム事業で新作ゲームを優先としたことに加えフィーチャーフォンからスマートフォンへの移行に伴うゲーム離れが重なり、「陰陽師」など既存タイトルの売上が期初予想を下回りました。加えてアドソリューション事業においても、スマートフォンへの移行に伴うユーザーの減少から、想定を下回る結果となりました。この第1四半期実績に加えて足下の市場環境等を考慮し、第2四半期累計期間及び通期の業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(平成24年7月30日)公表いたしました「平成25年3月期第2四半期累計期間および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,911,296	2,075,645
売掛金	1,662,238	1,302,156
前払費用	19,753	12,790
繰延税金資産	43,841	16,679
未収入金	140,041	3,686
その他	2,008	38,895
貸倒引当金	△7,218	△2,586
流動資産合計	3,771,961	3,447,267
固定資産		
有形固定資産		
建物	184,336	186,201
減価償却累計額	△40,701	△31,759
建物(純額)	143,634	154,442
工具、器具及び備品	68,583	59,059
減価償却累計額	△43,112	△34,725
工具、器具及び備品(純額)	25,470	24,334
有形固定資産合計	169,105	178,776
無形固定資産		
ソフトウェア	168,148	291,035
ソフトウェア仮勘定	63,476	154,924
その他	1,085	1,038
無形固定資産合計	232,711	446,998
投資その他の資産		
関係会社株式	—	49,500
繰延税金資産	82,121	82,263
敷金	202,714	170,453
その他	50	50
投資その他の資産合計	284,885	302,266
固定資産合計	686,702	928,041
資産合計	4,458,663	4,375,309

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	246,465	281,805
短期借入金	150,000	417,001
1年内返済予定の長期借入金	113,316	113,316
未払金	943,188	854,949
未払法人税等	347,231	49,147
未払消費税等	94,029	20,620
前受収益	12,691	13,019
賞与引当金	18,272	14,685
その他	42,332	33,075
流動負債合計	1,967,528	1,797,620
固定負債		
長期借入金	161,691	133,362
長期末払金	75,783	77,091
資産除去債務	33,953	34,078
固定負債合計	271,427	244,531
負債合計	2,238,955	2,042,151
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,059,807	1,060,624
資本剰余金	1,300,787	1,301,603
利益剰余金	△190,951	△88,508
株主資本合計	2,169,643	2,273,720
新株予約権	50,064	59,437
純資産合計	2,219,708	2,333,157
負債純資産合計	4,458,663	4,375,309

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	1,117,531	2,065,542
売上原価	524,223	1,208,693
売上総利益	593,307	856,848
販売費及び一般管理費	412,843	679,246
営業利益	180,464	177,601
営業外収益		
為替差益	44	—
業務受託料	—	1,200
その他	121	176
営業外収益合計	166	1,376
営業外費用		
支払利息	1,575	2,879
その他	—	72
営業外費用合計	1,575	2,951
経常利益	179,054	176,026
特別損失		
固定資産除却損	—	160
特別損失合計	—	160
税引前四半期純利益	179,054	175,866
法人税、住民税及び事業税	575	46,403
法人税等調整額	△147	27,020
法人税等合計	428	73,423
四半期純利益	178,626	102,443

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第1四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書 計上額 (注) 1
	エンタメウェブ	マーケティング ソリューション	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	1,002,710	114,820	1,117,531	—	1,117,531
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3,659	97	3,756	△3,756	—
計	1,006,369	114,917	1,121,288	△3,756	1,117,531
セグメント利益又は損 失(△)	192,097	△11,633	180,464	—	180,464

(注) 1. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書 計上額 (注) 1
	エンタメウェブ	マーケティング ソリューション	計		
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	1,874,770	190,771	2,065,542	—	2,065,542
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	8,487	8,487	△8,487	—
計	1,874,770	199,258	2,074,029	△8,487	2,065,542
セグメント利益又は損 失(△)	250,909	△73,307	177,601	—	177,601

(注) 1. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。